

ラオスという国を知って

金沢市立清泉中学校 二年 浦 碧子

ラオスとはどこだろう。そもそも国名だということさえ私は知らなかった。安物の地球儀が一回転半する前に私の頭は五回転するだろうと思われた。なかなか見つからず、ようやく見つけたと思ったら、日本とは意外と近いとわかった。「ラオス」は東南アジアにあり、ベトナムとタイにはさまれ、海はない。この国名が出てきたのは、私の父がラオスで学校建設に協力することになったからだった。ラオスは貧富の差が大きく、開発途上国だそうで、国名を知らない人も多い。父がラオスで見た学校は、千五百人の生徒がいて、トイレが二つしかなく、サツ

カーボールが二つだけあったそうだ。日本ではほとんど考えられないことである。私の通っている中学校は生徒が六百人だが、トイレは六十近くあるし、ボールに至っては、色々な種類のものが数えきれないほどある。私たちはすごく贅沢なんだと思った。

他にももつたいないものがある。給食だ。ラオスでは日本の購買のような所があるらしい。想像だが皆食べ物を残していないと思う。でも私の学校では、クラスで残す人がとても多く、残菜バケツがいつも一杯になっている。私も残したことがある。もつたいないなあと思ったこともある。が、私の回りではそんなことは当たり前になっていて、贅沢だと思わなかったことが恥ずかしい。

思い出すとまだある。私も父や母と一緒に、ラオスに持っていくクレヨンや鉛筆を買いに行った。文房具が足りないからだ。私なんかメモは片面書いたら捨てるし、シャーペンは十本近く持っている。ここに書くだけで、ああ無駄遣いだな…と思う。

私はこれまでの生活の中で、もつたいないと思っていなかったさまざまなことに気がついた。「国際化」とよく言われるが、いろいろな国のいろいろな事情や様子をすることは大切だと思う。減多にないチャンスだから、今までできてきたこ

とを反省したり、他の国のことだと思わずに、自分にできることを考え、実行していきたいと思う。

今、ラオスのことがテレビで放映されたり、新聞に載ったりしているのをよく見るようになった。以前からあつたのかもしれないけれども、ラオスという国を知った今の私には、よく目につくようになったのだろう。そんな時は必ず家族で見たり、話をする。父の学校建設協力がきっかけで、途方もなく遠いラオスという国のことを知ることができた。将来、父が建設に携わった学校を是非見に行きたいと思う。